

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

令和元年度 第3号 2020年1月29日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

### 令和元年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2020年1月14～18日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深50～500mの海域（図1右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期と同程度であった。
- ・ 魚群反応の強い海域は日高沖（新冠～静内沖）。
- ・ 反応の比較的強い水深は150m付近。ただし、海底に張り付いた反応は、水深250～300mにかけて。
- ・ 水深350m付近で着底トロールを行った結果、漁獲されたスケトウダラは未成魚が主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、調査海域全域で分布がみられましたが、その中でも日高沖の167、168漁区（新冠沖から静内沖）には強い反応がみられました（図1・2）。
2. 渡島から胆振にかけての平均反応量は、昨年同期と同程度でしたが、3次調査を開始した2004年度（調査は2005年1月）以降では、2017年度（2018年1月調査）に次ぐ低い水準となっていました（図3）。
3. 魚群反応は、水深100～500mの広い範囲で観察されました。その中でも水深150m付近に比較的強い反応がみられました（図4）。ただし、海底に張り付いた反応は、渡島・胆振海域ともに水深250～300mにかけてとなっていました（図2）。
4. 着底トロールによる漁獲調査を行った結果、渡島沖の水深350m付近（図1：右上図）で漁獲されたスケトウダラは尾叉長10cm、36cm、41cmにモードがみられる多峰型の組成となっていました（図5）。今年度生まれと考えられる尾叉長10cm付近を除く（尾叉長20cm以上の）スケトウダラ漁獲物の成熟状態を調べた結果、オス、メスともに未成魚が主体となっており（図6）、とくに尾叉長40cm未満のスケトウダラはほとんどが未成魚でした。なお、成魚でも、雌で6割、雄で7割程度は既に産卵が終わった個体となっていました。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

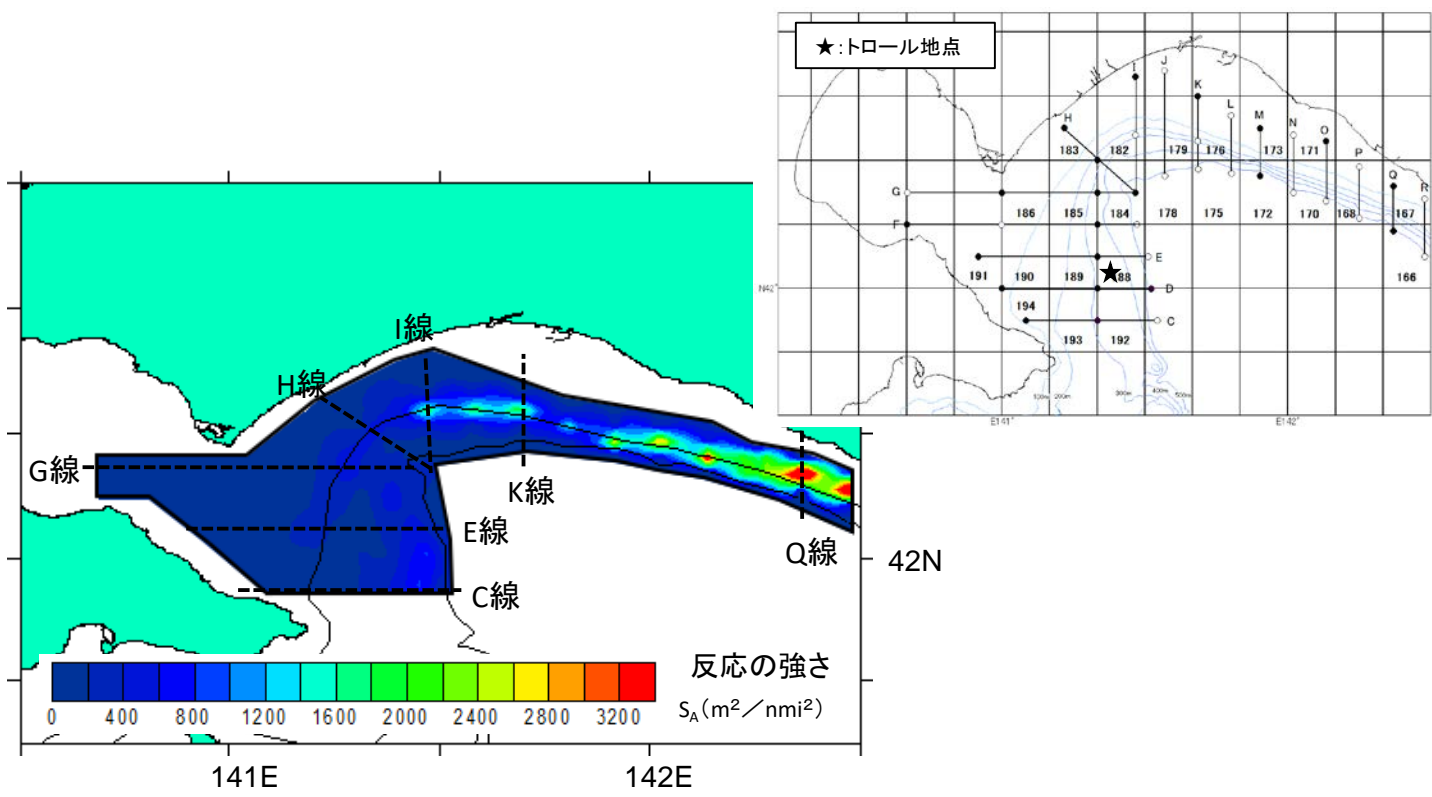


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

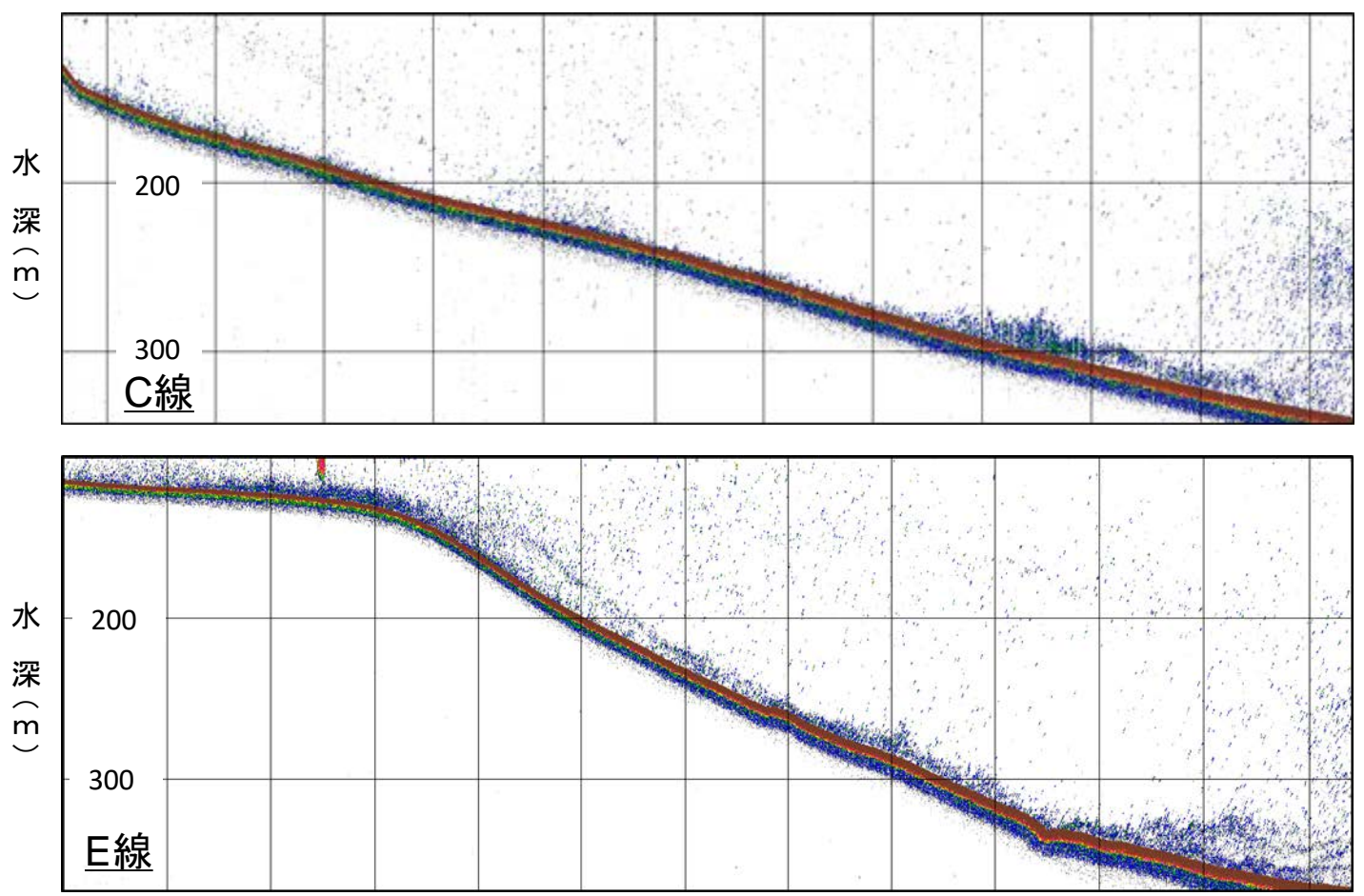
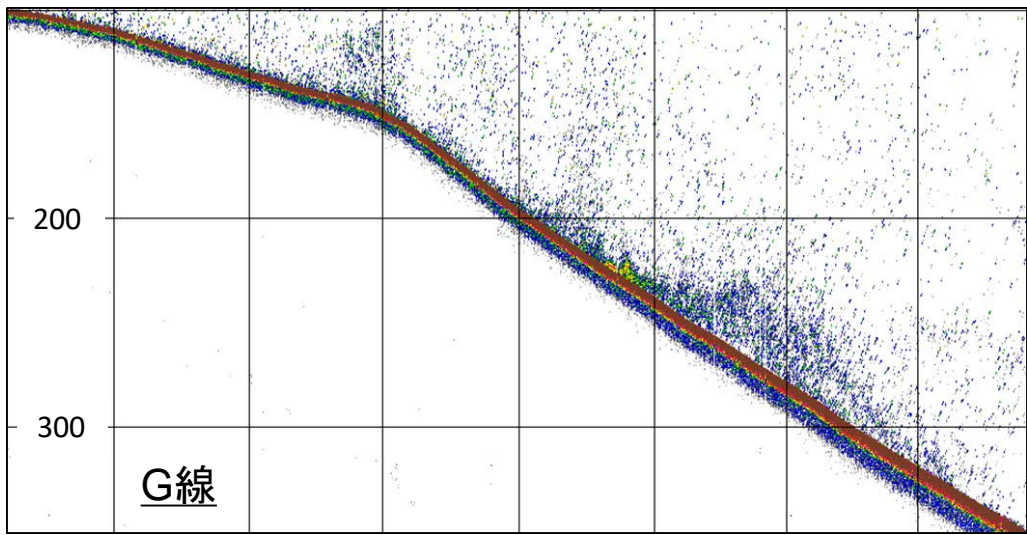
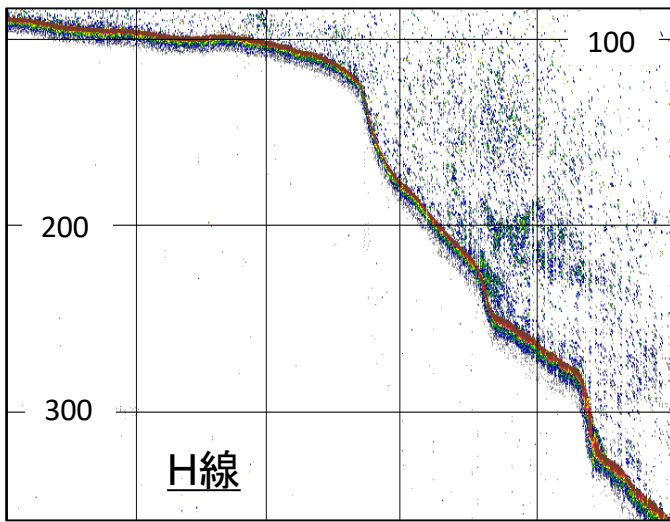


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

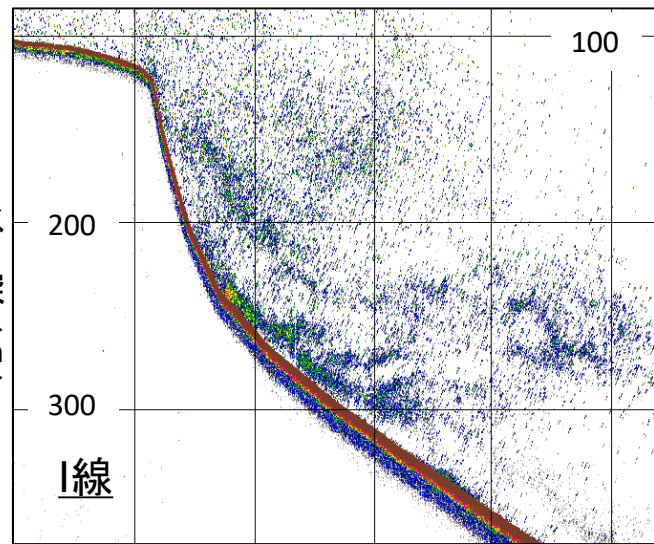
水深 (m)



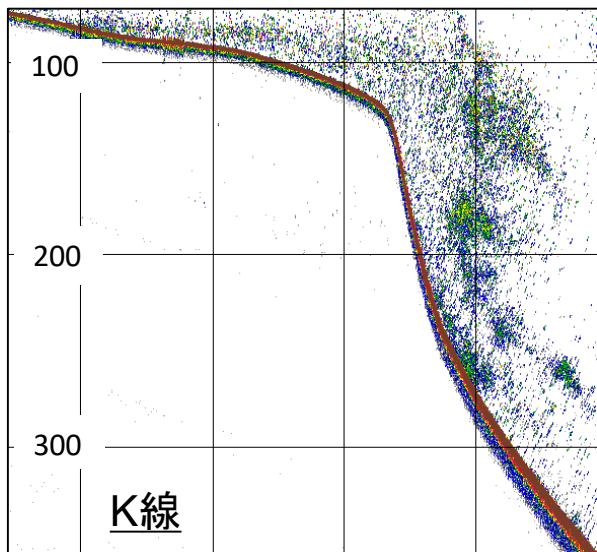
水深 (m)



水深 (m)



水深 (m)



水深 (m)

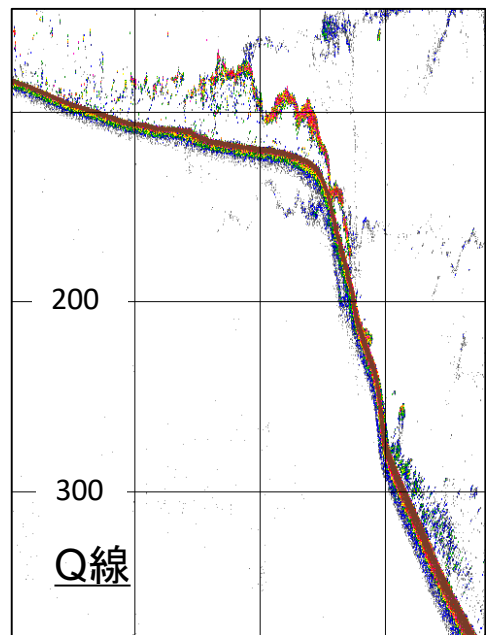


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

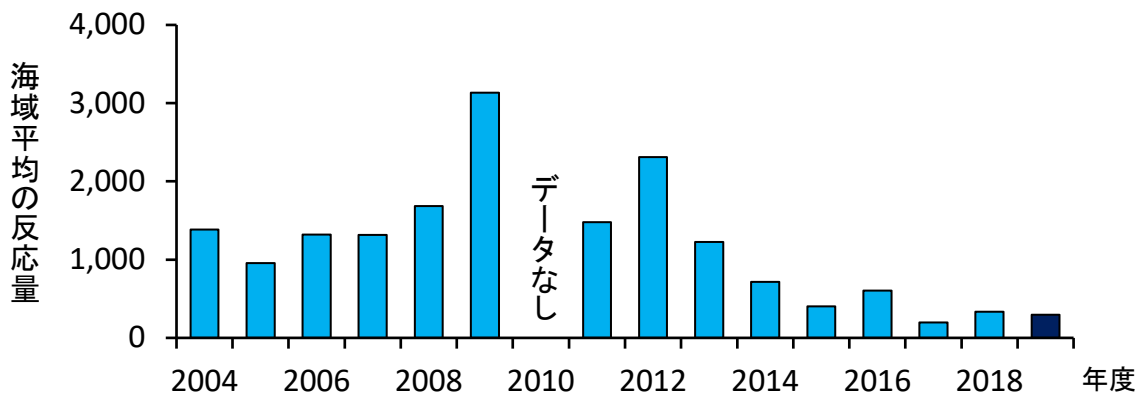


図3 調査海域における魚探反応量の推移

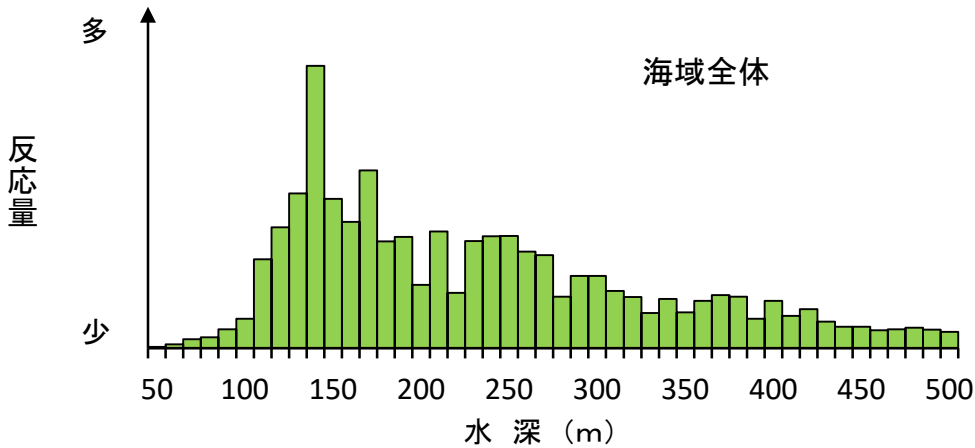


図4 水深別の魚探反応量

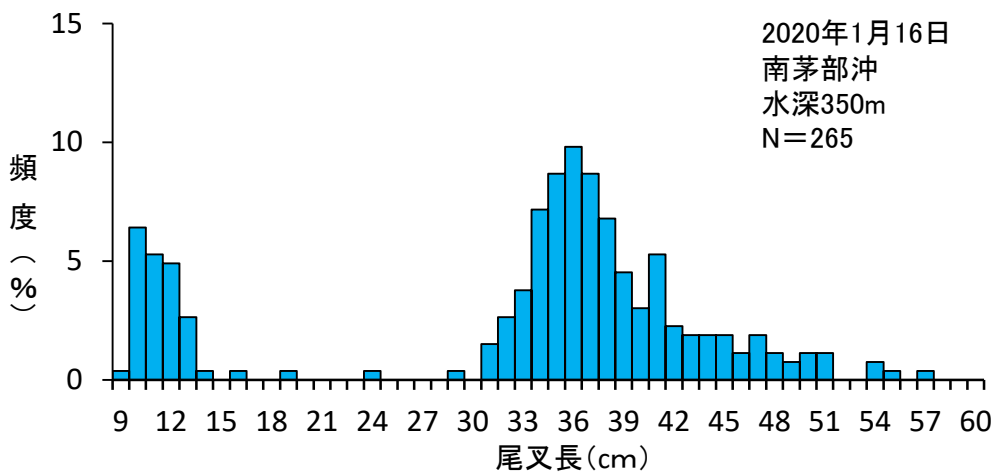
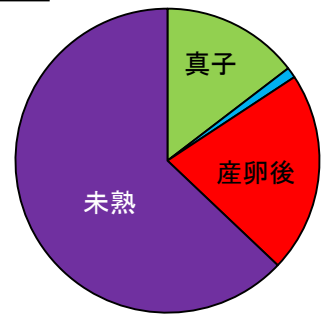


図5 漁獲物の体長組成

メス



オス

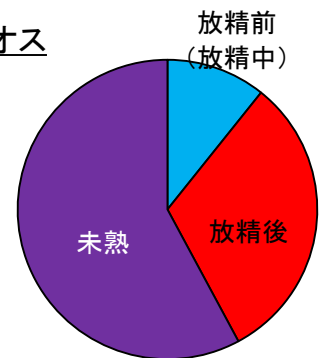


図6 漁獲物の成熟状態  
上:メス, 下:オス